

作詞

池内雅子・伊藤かおる・野崎稔 選

知事賞

遥かな街まで

叶 葉湖（東近江市）

二

懐かしい写真にそよぐ感情

行方知らずの君

遥かな街まで再会の朝

気持ちまとも歩き出す

夢をあきらめないでと背中押す君

今日も想ってる

ああ

あの日の僕追い越しながら

今君を迎えゆく

一

新しい季節におどる感情

行方知らずの鳥

遥かな街まで旅立ちの朝

荷物まとも立ち上がる

夢をあきらめないでと背中押す君

今日も笑ってる

ああ

飛行機雲追い越しながら

今道を切り開く

特選

びわ湖芸術文化財団理事長賞

ぼくがふるさとの色

松山 武(野洲市)

一 ぼくが愛したふるさとは

心の奥のキャンバスに

消えない色で残ってる

城山囲む外濠の

水面みなもを染める花筏いかだ

風に漂う春の色

二 ぼくが遊んだふるさとは

城の石段七曲り

登れば見える湖の青

友と鮎釣りした川は

町の外れた一筋ひとすぢの

銀色の糸夏の色

三 ぼくが育ったふるさとは
路地から城が見えている

古い家並み城下町

夕日に染まる天守閣

城下に響く時鐘の音

零れる萩は秋の色

四 ぼくが学んだふるさとは

城を仰いで若者が

未来を夢見る文の町

凍える空は雪を呼び

一夜で町は銀世界

ああ雪明り冬の色

五 ぼくが過ごしたふるさとは

幼友おともたち暮す町

遠く離れて住むぼくの

足は遠のきふるさとは

日々薄れゆきセピア色

銀板写真真夢の色